

平成24年度事務事業評価シート

◎基本情報

<b>事務事業名</b>		環境学習推進事業		<b>担当部署</b>	市民環境部 環境政策課	
<b>総合計画体系</b>				<b>根拠法令 計画など</b>	鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例、鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例施行規則、鳴門市環境基本計画	
<b>基本政策(大項目)</b>	2	安全で快適な環境の鳴門づくり			<b>事業期間</b>	<b>開始</b>
<b>政策(中項目)</b>	2	資源循環都市なると				
<b>(小項目)</b>	環境衛生					
<b>施策</b>	2	自然と共生できる循環型社会づくりの推進		<b>終期</b>		未定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">▼</span>
<b>基本事業</b>	2	クリーンセンターの運営及びゴミ対策				

◎事業概要(PLAN)

<b>事業対象</b>	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市民							
<b>事業目標</b>	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	市民の環境問題への意識の高揚を図る。							
<b>成果目標</b>	事業目標の達成度合	指標名		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	単位
		環境学習館利用者数		7,200	7,700	7,700	8,000	8,300	人

◎実施結果(DO)

<b>事業実施内容</b>	23年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	環境学習館において行う講座数を増やした。芝生広場やピオトープ広場において、コナラなどの植樹や芝生の養生、植栽の育成、遊歩道等の管理を行い、市民が利用しやすい環境づくりに努めた。また、ピオトープ池での絶滅危惧種「カワバタモロコ」飼育の可能性について具体的に検討した。						
<b>事業実施手法</b>		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
<b>指標名</b>		22年度実績	23年度実績	24年度目標	25年度目標	26年度目標	単位	
<b>活動指標</b> <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1 クリーンセンター視察数	32	31	35	40	45	件	
	2 イベント・講座実施数	12	26	28	30	32	件	
<b>成果指標</b> <small>対象にどのような効果があったか示す指標</small>	環境学習館利用者数	7,227	7,553	—	—	—	人	
	<b>目標達成率(実績/目標)</b>			98.1	—	—	%	

<b>コスト分析</b>		22年度実績	23年度実績	24年度	25年度	26年度	単位
<b>事業費</b> (財源内訳の合計)		425	5,014	1,925	1,925	1,925	千円
財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	4,620	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	9	355	10	10	10	
	一般財源	416	39	1,915	1,915	1,915	
<b>事業にかかる人件費</b> (人件費内訳の合計)		4,676	2,664	2,664	2,664	2,664	人
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	臨時職員等(2,012千円/人)	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
<b>総事業費</b> (事業費と事業にかかる人件費の合計)		5,101	7,678	4,589	4,589	4,589	千円

◎平成24年の実施状況(DO)

現在の実施状況	コーヤ苗を環境学習館にて配布することにより、環境学習館の周知を行った。 フクロウと子どもたちの森について市民が利用しやすい環境づくりに努める。環境学習に関する講座を実施する。絶滅危惧種の「カワバタモロコ」をビオトープ池にて飼育するための環境整備を行って、「カワバタモロコ」をビオトープ池に放流し繁殖に取り組む。
---------	--

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	環境学習の推進は、市民の環境についての意識啓発を高めるために必要である。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 自然と共生できる循環型社会づくりの推進の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	2.有効性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	環境の整備をし、利用者を増やすことで、市民の環境問題への意識啓発を図ることができる。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 行政内部の管理上の課題解決に貢献している。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業目標が達成できるような事業内容になっている。			
<input checked="" type="checkbox"/> ④ 事業対象は適切である。			
<input type="checkbox"/> ⑤ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。		
3.効率性の評価		理由等所見欄	
4	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。	市民の方の環境学習館への来場を増やすことで効率化が図れる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10			

◎今後の方向性(ACTION)

課題等	これまではクリーンセンター視察も多かったが、今後は施設を訪れる人をいかに増やすかが課題である。また「フクロウと子どもたちの森」についても、これまでに整備を終えたビオトープ広場や野外学習広場等の利用促進を図っていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
今後の改革案	実施予定時期	未定 ▼			
	どのように改革するのか	平成24年度の実績を踏まえて、フクロウと子どもたちの森56haを環境学習の場として長期的に活用できる方法について検討する。			

◎外部評価

評価結果(委員)	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
評価結果(市民評価員)	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
今後の改革の方向性	利用度を上げるために、NPO等の民間団体への委託、協働など運営主体の見直し、講座内容や開館日等の検討を行い、市民が利用しやすい環境を整える必要がある。				